

GRADUATE SCHOOL OF BUSINESS ADMINISTRATION

KOBE UNIVERSITY

ROKKO KOBE JAPAN

Discussion Paper Series

ビジネス・エコノミクスの教育に関する調査

- 日本・米英・アジア 27 大学院の比較 -

丸山雅祥

神戸大学大学院経営学研究科

2005 年 5 月

第1章 調査の概要

第1節 調査の目的

戦略の経済学や組織の経済学など、経営の分野に経済学を応用する研究が盛んになっている。この調査は、ビジネス・エコノミクスの授業内容を深め、よりよい教材開発を行っていくために、内外の大学院におけるビジネス・エコノミクスに関わる講義科目について調査を実施した。

第2節 調査方法

2-1 調査対象

米英の経営大学院として、以下の11校

- (1) カリフォルニア大学バークレー校 (University of California Berkeley, Haas School of Business) ,
- (2) ペンシルヴァニア大学ウォートン校 (The Wharton School of the University of Pennsylvania) ,
- (3) ダートマス大学タック・ビジネススクール (Tuck School of Business Administration at Dartmouth) ,
- (4) スタンフォード大学ビジネススクール (Stanford Graduate School of Business) ,
- (5) コロンビア大学ビジネススクール (Columbia Business School) ,
- (6) シカゴ大学ビジネススクール (The University of Chicago Graduate School of Business) ,
- (7) ハーバード大学ビジネススクール (Harvard Business School) ,
- (8) マサチューセッツ工科大学スローン・ビジネススクール (MIT Sloan School of Management) ,
- (9) ノースウェスタン大学ケロッグ・ビジネススクール
(Kellogg School of Management, Northwestern University) ,
- (10) ニューヨーク大学スターン・ビジネススクール
(New York University Leonard N. Stern School of Business) ,
- (11) ロンドン大学ビジネススクール (London Business School) ,

日本の経営大学院として、以下の9研究科

- (1) 神戸大学大学院経営学研究科専門職大学院,
- (2) 一橋大学大学院商学研究科経営学修士コース,
- (3) 早稲田大学ビジネススクール(大学院アジア太平洋研究科修士課程国際経営学専攻),
- (4) 早稲田大学大学院商学研究科プロフェッショナルコース,
- (5) 慶應義塾大学大学院経営管理研究科,
- (6) 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科,
- (7) 法政大学大学院社会科学研究科経営学専攻夜間コース,
- (8) 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科イノベーション・マネジメント専攻,
- (9) 関西学院大学大学院商学研究科マネジメント・コース,

日本を除くアジア地域の経営大学院として、以下の4大学院

- (1) 韓国科学技術院 (KAIST) ,
- (2) 国立ソウル大学経営大学院,
- (3) シンガポール国立大学経営大学院,
- (4) 香港科学技術大学経営大学院,

参考データとして、日本の研究者養成コースの大学院である東京大学大学院経済学研究科、京都大学大学院経済学研究科、大阪大学大学院経済学研究科を加えた、27大学院を抽出し、調査を行った。

2 - 2 調査方法

(1) 制度面の比較

- ・ 調査の方法は、各研究科についてホームページまたは講義要綱などによる調査とした。
- ・ 各研究科について、学生の人数、Part-Time MBA か Full-Time MBA か、講義科目は MBA コースと PhD コースが分離もしくは共通しているのかを調査した。

(2) ビジネス・エコノミクス関連科目の比較

- ・ 各研究科についてビジネス・エコノミクスに関連する講義科目を調査した。
- ・ 各科目について MBA コースと PhD コースが分離もしくは共通しているのかを調査した。

(3) 重点調査

- ・ 2 - 1 で示した各大学院について、ビジネス・エコノミクスに関連する講義科目が、コア科目もしくは関連科目であるのか、さらに講義内容とテキストについて調査した。

第3節 調査の時期

3 - 1 調査の時期

平成 16 年 12 月～平成 17 年 3 月に調査を実施。

3 - 2 調査対象の時期

2004 年度開講科目（一部 2003 年度以前の開講科目あり）について調査を実施。

第2章 経営大学院の制度面の比較調査

第1節 米英

受講生のキャリア・目的ごとに専門化されたコースが提供されている場合がほとんどであり、MBA コースと PhD コースの学生を同時に扱うようなコースは見られなかった。ほとんどの大学で、MBA コース、上級管理職向け MBA コース、PhD コースの3つのコースが提供されている。

そして、それらのコースは独立して授業が提供されており、全コースの学生が一同に集うような授業はほとんど提供されていない。例えば、MBA コースでは現実の経営に関連する科目が多く設定されているのに対して、PhD コースでは理論的な科目が圧倒的に多い。このようなキャリアごとのコース提供が行われる理由として、ほとんどの大学が「受講者のバックグラウンドに合わせたよりよい教育内容を提供するため」としている。例えば、ペンシルヴァニア大学ウォートン校では、実務経験の豊かさの違いによって本質的な教育プログラムは変わらないとしても、その経験の豊かさを生かすために教育をカスタマイズする必要があることを強調している。

ただし、シカゴ大学ビジネススクールのような大規模大学院では、他コースの科目を履修可能にしている場合もある。しかしながら、ロースクールやメディカルスクールなど複数の学位取得を目指す学生に開かれているが、必修科目としては認められないなど、あくまでも「履修の選択肢を増やす」手段としての意味合いが強いと思われる。

また、上級管理職向け MBA コースでは、多忙な管理職の教育の利便を図る意味で、異なったキャンパス 時間で授業が提供されることが多い点も、コースが明確に分離されている理由として指摘できる。

履修形態は、Full-Time MBA を全大学が採用しており、Full-Time MBA と Part-time MBA とを併設している大学も多い。

第2節 日本

MBA コースと PhD コースを並列して設定している大学が少なく、MBA コースから PhD コースに移動しようとする、研究科も移動させなくてはいけなくなる大学が多い。したがって、科目間においても共通化している大学は非常に少ない。

また、履修形態は、各大学による特色が色濃く出ており、Full-Time MBA を採用している大学と、Part-Time MBA を採用している大学が同数存在した。神戸大学経営学研究科専門職大学院のように、平日夜間と土曜日に講義を設定している大学もあり、集中講義の形式を取る講義が非常に多い。

第3節 アジア

調査した4校に共通しているのは、PhD コースと MBA コースがほぼ同じ授業を実施していることである。MBA 学位取得のための必要科目の単位数などは PhD コースとは異なるものの、MBA コースだけのための授業はほとんど設定されていない。

また、韓国の場合、企業慣行などにより仕事と学業を並行することが困難なことから、Full-time MBA 制がほとんどであるが、シンガポール国立大学と香港科学技術大学の場合は、Full-time MBA と Part-time MBA 制度が設けている。

さらに、シンガポール国立大学は中国の大学と提携して交換課程を設けており、香港科学技術大学の場合はアメリカのノースウェスタン大学ケロッグ・ビジネススクールと提携し、Executive MBA 課程を設けている。

第4節 総括

以上の調査結果は、次の表のように要約することができる。

| | MBA と PhD が分離 | MBA と PhD が混合 |
|---------------|---|---|
| Part-Time MBA | カリフォルニア大学バークレー校 ペンシルヴァニア大学ウォートン校 コロンビア大学ビジネススクール シカゴ大学ビジネススクール ニューヨーク大学スターン・ビジネススクール ノースウェスタン大学ケロッグ・ビジネススクール 神戸大学経営学研究科専門職大学院 早稲田大学大学院商学研究科プロフェッショナルコース 法政大学大学院経営学研究科経営学専攻夜間コース 関西学院大学大学院商学研究科マネジメント・コース | スタンフォード大学ビジネススクール 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科 シンガポール国立大学経営大学院 香港科学技術大学経営大学院 |
| Full-Time MBA | カリフォルニア大学バークレー校 ダートマス大学タック・ビジネススクール ペンシルヴァニア大学ウォートン校 コロンビア大学ビジネススクール シカゴ大学ビジネススクール ハーバード大学ビジネススクール マサチューセッツ工科大学スローン・ビジネススクール ノースウェスタン大学ケロッグ・ビジネススクール ニューヨーク大学スターン・ビジネススクール ロンドン大学ビジネススクール 一橋大学大学院商学研究科経営学修士コース 早稲田大学ビジネススクール 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科 | スタンフォード大学ビジネススクール シカゴ大学ビジネススクール 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科 韓国科学技術院 国立ソウル大学経営大学院 シンガポール国立大学経営大学院 香港科学技術大学経営大学院 |

第3章 ビジネス・エコノミクスに関連する授業科目の比較

第1節 米英

調査対象となった MBA プログラムは、通常のコースにおいては2年制が一般的であり、プログラムで必要となる基本的な概念や理論は、1年目の必修科目でひととおり習うことになる。必修科目には、戦略的意思決定分析、マーケティング、ファイナンス、会計、統計、各種オペレーション・リサーチ、組織論などが含まれるが、中でも「経営経済学(Managerial Economics)」は全ての大学で開講されており、ビジネススクールにおける統一的な理論的枠組みを提供する科目として扱われていることがうかがえる。共通している講義内容としては、基礎的なミクロ経済学(需要と供給の分析や完全競争市場など)や、情報の経済学(寡占市場分析・ゲーム理論・インセンティブなど)が挙げられる。

主に2年目に履修することになる専門科目では、専門性の高い多様な科目が提供される傾向にあるが、1年目と同様に、ほとんどの大学がビジネス・エコノミクス関連科目を提供している。情報の経済学やオークション理論など、近年目覚ましく発展した応用ミクロ経済学の分野を提供する科目が多い。

講師について述べると、MBAを専門とするダートマス大学タック・ビジネススクールを除けば、PhDコースを担当する教員がMBAコースも兼任することが多い。たとえば、スタンフォード大学ビジネススクールで開講されている「経営経済学(Managerial Economics)」では、ゲーム理論などの研究で著名な D. M. Kreps が担当しているし、カリフォルニア大学バークレー校の「ゲーム理論と戦略 (Game theory and Strategy)」を担当する J. Morgan は、オークション理論などの非対称情報の経済学や実験経済学で多数の業績をあげている若手研究者であり、PhDコースでは「契約の経済学(Contract Theory)」も担当している。

以上のように、ビジネス・エコノミクスに関連する科目は、MBA教育のコア科目として扱われているだけでなく、それらの教育を担当する教員も、学会で活発に活動을続ける気鋭の研究者に委ねられていることがうかがえる。実務経験者がほとんどを占め、実務に役立たせるために入学するMBA学生に対し、彼らを教育する教員の多くは、実務者ではなく研究面で業績を挙げている気鋭の研究者であることは面白い。

第2節 日本

アメリカの場合とは大きく異なり、MBAプログラムに経済学の科目は少なく、必ずしも必修科目として設定されていない場合がほとんどである。MBAプログラムは2年制が一般的であるが、1年目の必修科目ですら経済学が設定されていない大学院もあり、経済学を用いた分析を学ぶことができない大学も多い。

そのため、専門科目で経済学を用いる科目が登場しても、アメリカの1年目の必修科目で学習する内容であることが多い。基礎的なミクロ経済学の解説や情報の経済学・ゲーム理論などは、専門科目を履修する段階で初めて知ることさえある。

第3節 アジア

アジアの4大学において設定されている科目は、基本的にMBAコースとPhDコースが共通している。ただし、各コースにおいて履修すべき科目の数は異なる。香港科学技術大学経営大学院の場合は、PhDコースだけが履修できる科目が、共通科目とは別に設けられている。

第4節 総括

| | MBA | MBA/PhD | PhD |
|----|--|---------|---|
| 米英 | <p>[カリフォルニア大学] ビジネスにおける意思決定の経済分析 経済分析と経済政策の総合トピックス 意思決定・ゲーム理論・戦略</p> <p>[ペンシルヴァニア大学] 経営経済学 経営経済学とゲーム理論</p> <p>[ダートマス大学] 経営経済学 応用最適化理論 ゲーム理論の経営的応用</p> <p>[スタンフォード大学] 経営経済学 モデリング分析 データと決定分析 米国医療産業における政治経済学</p> <p>[コロンビア大学] 経営経済学 メディア産業の経済分析</p> <p>[シカゴ大学] 競争戦略 ミクロ経済学</p> <p>[ハーバード大学] ゲームと戦略 競争のミクロ経済分析</p> <p>[マサチューセッツ工科大学] ビジネスにおける意思決定の経済分析 データ・モデル・決定分析</p> <p>[ノースウェスタン大学] ミクロ経済分析</p> <p>[ニューヨーク大学] 上級マクロ経済学 企業と市場 エンターテインメントとメディア</p> <p>[ロンドン大学] 経営経済学 意思決定とリスク分析 産業と競争の分析 戦略的思考</p> | | <p>[スタンフォード大学] ミクロ経済学 ミクロ経済学 ゲーム理論 オークション・交渉・価格決定分析</p> <p>[コロンビア大学] ミクロ経済学 産業組織論</p> <p>[シカゴ大学] 産業組織論 情報の経済学</p> <p>[ハーバード大学] マーケットデザイン 契約理論</p> <p>[ノースウェスタン大学] 決定理論 経営経済学基礎 : ゲーム理論 契約理論とメカニズムデザイン 上級応用ミクロ経済学 競争戦略</p> <p>[ニューヨーク大学] ミクロ経済学: 理論と応用 マクロ経済分析 上級ミクロ経済理論 ミクロ経済学による意思決定</p> |

| | | | |
|------------|---|--|--|
| <p>日本</p> | <p>[神戸大学] ミクロ経済学応用研究 [一橋大学] 企業と産業の経済学 [早稲田大学] 企業の経済学 [慶應義塾大学] 企業経済論 市場競争と戦略 経営科学 マネジリアル・エコノミクス特殊講義 [法政大学] 人事・組織経済学 経営戦略論 [関西学院大学] 市場システム論特殊講義</p> | <p>[青山学院大学] ゲーム理論とマネジメント [大阪大学] ビジネス・エコノミクス基礎 応用ビジネス・エコノミクス</p> | <p>[東京大学] 産業組織と競争政策の評価 日本の企業と産業組織 [京都大学] 産業経済のゲーム分析 組織間関係の経済分析</p> |
| <p>アジア</p> | | <p>[韓国科学技術院] 戦略の経済学 ミクロ経済分析 ゲーム理論と応用 ゲーム理論の上級トピックス ミクロ経済理論 産業組織論 情報通信経済学 [ソウル大学] 経営経済学 経済学理論の研究 ゲーム理論 デジタルエコノミー [シンガポール国立大学] 経営経済学 経営者の分析 マクロ国際経済学 競争力のミクロ経済分析 マーケティング戦略とゲーム理論 [香港科学技術大学] 経営経済学 ミクロ経済分析 マクロ国際経済学 ゲーム理論・経済学・競争戦略 ハイテク産業の経済学</p> | <p>[香港科学技術大学] 経営・経済のための数学 ミクロ経済理論 経済学基礎</p> |

第4章 大学ごとの個別調査

第1節 米英

1 カリフォルニア大学バークレー校 (University of California Berkeley, Haas School of Business)

(1) MBA コース

修了必要コア科目単位数は修了必要単位数の40%を占める。コア科目, 選択科目ともにミクロ経済学系科目が用意され, コア科目ではミクロ経済学の応用に関する科目が, 選択科目ではゲーム理論の応用に関する科目が設定されている。

| | |
|---|---|
| ＜コア＞ビジネスにおける意志決定の経済分析(Economics for Business Decision Making) | |
| 講師 | D. Ingberman / P. Clark |
| 講義内容 | 微積分と代数学の知識が必要。企業の競争優位を築くための資源配分, 競争行動をミクロ経済学から学ぶ。内容は価格設定, 費用分析など。ディスカッションとケース分析も行う。 |

| | |
|---|--|
| 経済分析と経済政策の総合トピックス(Topics in Economic Analysis and Policy) | |
| 講師 | V. K. Aggarwal |
| 講義内容 | 経済分析と政策について学習を進める。その年ごとの新しい政治経済のトピックスが検討される。 |
| 教材 | D. P. Baron, <i>Business and Its Environment</i> , Prentice-Hall, 4th ed., 2002. |

| | |
|--|---|
| 意思決定・ゲーム理論・戦略 (Decisions, Games, and Strategies) | |
| 講師 | X. Su |
| 講義内容 | 経営管理論をコアで習得していることが望ましい。経営者・マネージャーが直面する意思決定において, 相手を考慮する必要がない状況(「自然(nature)」が相手の場合)での意思決定には決定分析が, 相手や相手企業の行動を考慮しなければならない状況での意思決定にはゲームのモデルが, それぞれ教授され, 多様な応用例が示される。 |

(2) PhD コース

コア科目において, 経済理論と統計的方法論を必須とする。微積分, 代数学等の知識が要求されるが, それらは数学科等で履修を行うことになる。また, 専門的領域の他に, MBA や経済学, 心理学, 社会学, あるいは政治学科から基本的な訓練を選択し, 研究を行う際のツールを習得することになる。専門的な論文を執筆するために, 多様なセミナーが開催され, 学生はそれらで自身の研究のプレゼンテーションを行う。

ビジネス・エコノミクス関連の学科: Business and Public Policy では, 経済理論(Economic Theory)の履修が必須とされる。また, 例えば, 他分野である Organizational Behavior and Industrial Relations 学科では労働経済学(Labor Economics)が必修とされるなど, 経済学関連科目はどの領域においても設置されている。

2 ペンシルヴァニア大学ウォートン校 (The Wharton School of the University of Pennsylvania)

(1) MBA コース

学生は次の領域のうち、1つあるいは2つを専攻する：

倫理・リーダーシップ・コミュニケーション(Ethics, Leadership, and Communication), 戦略, マーケティング, オペレーション, 統計

さらに、200の選択科目が用意されており、各自のキャリアや目標に応じて選択が可能である。

| | |
|------------------------------------|---|
| <基礎科目> 経営経済学(Managerial Economics) | |
| 講義内容 | ミクロ経済学(供給, 需要, 消費者行動, 市場価格とアウトプット, 生産, コスト, 完全競争市場均衡, 独占的価格設定とアウトプットの決定, 価格差別)の基本的な理論をカバーする。初級の代数学と微積分の基礎知識が必要とされる。また, ディスカッションも行う。 |
| 教材 | W. B. Allen, N. A. Doherty, K. Weigelt, E. Mansfield, <i>Managerial Economics</i> , W. W. Norton, 5th ed., 2002. |

| | |
|----------------------------------|--|
| <コア> 経営経済学(Managerial Economics) | |
| 講義内容 | 応用分野をカバーする。たとえば, スマートな独占価格設定(sophisticated monopoly pricing(two part tariffs, bundling, transfer pricing)), 寡占市場(oligopoly markets), 期待効用理論(expected utility), ゲーム理論(game theory), オークション(auctions), 外部性(externalities), 非対称情報(asymmetric information) |
| 教材 | オリジナル教材 |

| | |
|----------------------------------|--|
| <コア> 経営経済学(Managerial Economics) | |
| 講義内容 | ある程度の市場支配力を有する企業の戦略を, 応用経済学の観点から分析する。扱う理論は, スマートな価格戦略(sophisticated pricing policies), 移転価格(transfer pricing), 相手企業が存在する際の企業戦略(strategies in dealing with competitor firms, cooperation strategies), 不確実性下の意思決定(managing under uncertainty), 非対称情報(asymmetric information), オークション(auctions), 外部性(externalities)など |
| 教材 | W. B. Allen, N. A. Doherty, K. Weigelt, E. Mansfield, <i>Managerial Economics</i> , W. W. Norton, 5th ed., 2002. |

| | |
|---|---|
| 経営経済学とゲーム理論(Managerial Economics and Game Theory) | |
| 講義内容 | 主に, 経営の意思決定におけるゲーム理論の応用を講義する。企業間の競争行動(pricing and product strategies, capacity choices, contracting and negotiating, signaling, takeover strategies), 企業内管理(internal incentives and information flow within a firm), 企業外での経済現象 (strategic trade policies, litigation and regulatory strategy) について応用例が示される。講義, ディスカッション, 実験(ゲームプレイ)を用いる |
| 教材 | オリジナル教材 |

(2) PhD コース

学生は自分の領域を 213 人のアドバイザーによる 11 の専攻から 1 つ選択：

会計(Accounting) , ビジネスと公共政策(Business & Public Policy) , 倫理と法律(Ethics & Legal Studies) , 金融(Finance) , 医療制度(Health Care Systems) , 保険とリスクマネジメント(Insurance & Risk Management) , 経営管理(Management) , マーケティング(Marketing) , オペレーションと情報管理(Operations & Information Management) , 不動産(Real Estate) , 統計(Statistics)

ビジネス・エコノミクス関連のセミナーについて , 応用経済学セミナー(Applied Economics Seminar) : 講師 J. Waldfoegel ほか。概要は , セミナー参加と論文執筆の両方を通してクリティカルな応用経済学の思考の技能を身につけることを目標とする。

応用経済学のためのリサーチセミナー(Applied Economics Student Research Seminar)があり , その概要は PhD コースのどの専攻の学生にも開かれており , 応用経済学研究のための知識を教授するよう設計されている。学生による研究のプレゼンテーション , 前日の応用経済学セミナーに関するディスカッション , ゲストスピーカーによるリサーチトピックスの紹介による学生の論文作成支援が行われる。

3 ダートマス大学タック・ビジネススクール (Tuck School of Business Administration at Dartmouth)

Full-Time MBA コースのみで、PhD コースを設置していない小規模経営大学院。1年目でコアコースを、2年目で選択科目を履修する。講義、ケーススタディ、データによるシミュレーション、フィールド研究などを組み合わせたスタイルを採用している。

| | |
|----------------------------------|--|
| ＜コア＞ 経営経済学(Managerial Economics) | |
| 講師 | V. O. Stango / R. G. Hansen |
| 講義内容 | ミクロ経済学の理論を応用し、経営の意思決定においてどのように応用されるかを例示する。教科書と経済雑誌、タックオリジナルのケーススタディを用い、次のような内容の講義を行う：取引・市場・価格差別・効率性、経済分析における費用の概念、完全競争市場均衡、価格差別、バージョン化・抱合せ販売・それ以外の価格戦略、外部性・ネットワーク効果・知的所有権、非対称情報の経済学(アドバースセクション・モラルハザード)、ゲーム理論・競争と協調の戦略 |
| 教材 | I. Png, <i>Managerial Economics</i> , Blackwell Publishing, 2nd ed., 2001. |

| | |
|---|--|
| ＜コア＞ 応用最適化理論(Application of Optimization) | |
| 講師 | K. R. Baker |
| 講義内容 | コンピューターソフトウェアを用い、最適化理論を教授する。スプレッドシートソフトとして、Excel のソルバー機能を用いて、線形計画法、DEAなどを扱う。また、マーケティングおよびロジスティクスでの諸問題を解決する最適化手法を習得する。 |
| 教材 | R. L. Rardin, <i>Optimization in Operations Research</i> , Prentice-Hall, 1997. L. Schrage, <i>Optimization Modeling with LINGO</i> , LINDO Publishing, 2003. |

| | |
|---|---|
| ゲーム理論の経営的応用(Managerial Applications of Game Theory) | |
| 講師 | R. G. Hansen |
| 講義内容 | ゲーム理論を、競争戦略を策定するツールとして用いることができるよう教授する。若干のケーススタディとともに、比較的厳密で高度な数学モデルを用いる。以下の内容の講義を行う：寡占モデル、逐次行動による均衡、オークション、逐次ゲーム、動学ゲーム、逐次ゲーム、繰り返しゲーム |
| 教材 | A. K. Dixit, B. J. Nalebuff, <i>Thinking Strategically, The Competitive Edge in Business, Politics, and Everyday Life</i> , W. W. Norton & Company, 1991. D. Besanko, D. Dranove, M. Shanley, S. Schaefer, <i>Economics of Strategy</i> , John Wiley, 2000. P. Klemperer, "Auction Theory: A Guide to the Literature", <i>Journal of Economic Surveys</i> , Vol. 13(1999), 227-286. R. P. McAfee, J. McMillan, "Competition and Game Theory", <i>Journal of Marketing Research</i> , Vol. 33-3(1996), 263-267. R. Axelrod, W. D. Hamilton, "The Evolution of Cooperation", <i>Science</i> , Vol.211(1981), pp. 1390-1396. R. Gibbons, <i>Game Theory for Applied Economists</i> , Princeton University, 1992. 他に、Judo Economics (HBS 9-794-103)などの論文を用いる。 |

4 スタンフォード大学ビジネススクール (Stanford Graduate School of Business)

(1) MBA コース

修了必要のコア科目数 4 科目(全体で 13 科目開講), 修了必要な選択科目数 4 科目(同, 14 科目)で, コア科目 1 科目, 選択科目 2 科目が経済学分野となっている。なお, 選択科目の多くは, コア科目である経済学・統計学をバックグラウンドとしていることを明記している。

| | |
|---------------------------------|---|
| ＜コア＞経営経済学(Managerial Economics) | |
| 講師 | D. M. Kreps / J. Bulow |
| 講義内容 | <p>企業や個人の意思決定に関係するミクロ経済学の諸トピックスをカバーする。以下の項目を講義形式でカバーする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎ミクロ経済学：需要と供給，消費者理論，生産者理論，価格差別，完全競争，部分均衡分析，外部性と公共財 ・情報の経済学とゲーム理論：リスク回避性とリスクシェアリング，隠された情報と市場シグナル，モラルハザードとインセンティブ，基礎ゲーム理論 ・応用ミクロ経済学：寡占理論，評判と信用，取引費用の経済学 |

| | |
|------------------------------------|--|
| ＜コア＞モデリング分析(Modeling and Analysis) | |
| 講義内容 | <p>パッケージソフトウェアを使用し，最適化理論などをもとに数量的な分析を行う。数学的理論ではなく，モデルの定式化とその解釈に重点をあてる。以下の3点を中心に行う。数量モデリング：言語的な記述や状況を，パッケージソフトの分析に適合するように，数量データへと加工することを習得する。最適化モデル：マーケティング，オペレーション，ファイナンスに関する線形計画法・非線形計画法に焦点をあてる。モンテカルロシミュレーション：パッケージのシステム動学シミュレーションを取り扱う。</p> |

| | |
|----------------------------------|--|
| ＜コア＞データと決定分析(Data and Decisions) | |
| 講師 | K. Seim |
| 講義内容 | <p>不確実状況下での意思決定とリスク分析の基礎コンセプトや技術を学ぶ。以下の項目について講義を行う：確率理論，決定分析(デシジョンツリー・意思決定基準・情報の価値・シミュレーション技術)，統計的方法(サンプリング・回帰分析・検定)</p> <p>以下の項目について応用を行う：投資管理，需要分析，くじ，ポートフォリオ分析，保険，オークション，調査と思考プール(surveys and opinion polls)，環境汚染，失敗の分析(failure analysis)</p> |

| | |
|---|--|
| 米国医療産業における政治経済学(Political Economy of Health Care in the US) | |
| 講義内容 | <p>医療産業について，経済学的な分析ツール，組織，制度をベースに学ぶ。ケーススタディ，講義，医療産業に携わる人物のゲスト招聘により進められる。大きく4つのパートに分ける：経済学的分析ツールの習得(モラルハザード・アドバースセレクション)，米国における医療産業の産業組織，医療産業における公的政策や規制・医療保険改革など，米国以外の各国におけるケーススタディとその教訓</p> |

(2) PhD コース

全部で 7 つの専攻があり (Accounting , Economic Analysis & Policy , Finance , Marketing , Operations , Information & Technology , Organizational Behavior , Political Economics) , 学生は 600 ほどのセミナーに出席することで専門分野での知識を深めることができる。

| ミクロ経済学 I (Microeconomic Analysis I) | |
|-------------------------------------|--|
| 講師 | D. M. Kreps |
| 講義内容 | 基礎的なミクロ経済学を習得する。内容は、確実性下・不確実性下の消費者選択(model of consumer choice, with and without uncertainty) , 需要理論(demand theory) , 社会選択と効率性(social choice and efficiency) , 完全競争市場(perfect markets) , 静学的・動学的一般均衡(general equilibrium (static and dynamic)) , 独占・寡占(monopoly, oligopoly)である。 |

| ミクロ経済学 II (Microeconomic Analysis II) | |
|---------------------------------------|---|
| 講師 | R. B. Wilson |
| 講義内容 | ゲーム理論をもとに、情報(roles of information) , インセンティブ(incentives) , 戦略的行動(strategic behavior in markets)を取り扱う。応用トピックスとして、オークション(auctions) , 交渉(bargaining) , 競争戦略(firms' competitive strategies) , メカニズムデザイン(mechanism design)を扱う。 |

| ゲーム理論(Game Theory) | |
|--------------------|--|
| 講師 | Y. Feinberg |
| 講義内容 | ゲーム理論の中でも、非協力ゲームに焦点をあてる。不完備情報ゲーム(incomplete information) , ラーニング(Learning)などを扱う。学部あるいは基礎コースでのゲーム理論、あるいはそれ以外のゲーム理論の応用が解説されている授業の履修が必要である。 |

| オークション・交渉・価格決定分析(Auctions, Bargaining, and Pricing) | |
|---|--|
| 講師 | J. Bulow |
| 講義内容 | 交渉とプライシングに関連した、オークション理論を取り扱う。前半では、先駆的業績である Myerson と Satterthwaite の交渉理論, Myerson の最適オークション, Milgrom と Weber のオークション理論などが教材に用いられる。後半では、共有価値オークション(common value auctions) , 複数財オークション(multiple unit auctions) , そして、電波オークションなどの実例を取り扱う。また、オークション設計と、自己選択(self-selection)およびプライシング理論(pricing)の関連を深く取り扱う。 |
| 教材 | R. B. Myerson, M. A. Satterthwaite, "Efficient Mechanisms for Bilateral Trading", <i>Journal of Economic Theory</i> , Vol.29-2(1983), 265-281. R. Myerson, "Optimal Auction Design", <i>Mathematics of Operations Research</i> , Vol.6 (1981), 58-73. P. R. Milgrom, R. J. Weber, "A Theory of Auctions and Competitive Bidding", <i>Econometrica</i> , Vol.50-5(1982), 1089-1122. |

5 コロンビア大学ビジネススクール (Columbia Business School)

(1) MBA コース

全部で12の専攻が設置されている: 会計(Accounting), 決定・リスク・オペレーション(Decision, Risk and Operations), アントレプレナーシップ(Entrepreneurship), ファイナンスと経済学(Finance and Economics), 人的資源管理(Human Resource Management), 国際経営(International Business), 経営管理(Management), マーケティング(Marketing), メディア(Media), オペレーション管理(Operations Management), 不動産(Real Estate), 社会企業(Social Enterprise)

一年目はコア科目, 二年目は選択科目を履修することになるが, 選択科目では生徒のキャリアに応じた幅広い科目が提供されている。

| | |
|------------------------------------|--|
| < コア > 経営経済学(Managerial Economics) | |
| 講師 | B. Celen |
| 講義内容 | 経営者の意思決定に経済学を応用する入門講座である。次のような基本的なミクロ経済学の内容をカバーする: 限界分析(marginal analysis), 意思決定構造(the structure of decision problems), 意思決定と市場構造(競争市場・独占市場・独占的競争市場・寡占市場), 企業間の戦略的関係とゲーム理論(logical structure and implications of strategic interactions among firms (game theory)) |
| 教材 | R. Pindyck, D. Rubinfeld, <i>Microeconomics</i> , Prentice-Hall, 6th ed., 2004. |

| | |
|---|--|
| メディア産業の経済分析(Analysis of Media Industry) | |
| 講師 | M. H. Riordan |
| 講義内容 | 芸術, 娯楽, 通信産業について, 経済学の観点から分析を行う。講義内容は次のとおり: 音楽産業における製品増殖(product proliferation in the recorded music industry), デジタル知的財産保護(digital copyright protection), 製作者・販売者間の収入シェアリング契約(revenue-sharing in film exhibition contracts, artist and dealer), ジョイントベンチャー(joint ventures), 遠距離電話のプライスカップ規制(price cap regulation for long distance telephony), 交響楽団の財務管理(financing of symphony orchestras), サテライトTVにおける参入行動(competitive entry into satellite TV), 周波数帯オークション(bidding for 3G spectrum rights), 非価格競争(non-price competition between advertising-supported radio) |
| 教材 | R. E. Caves, <i>Creative Industries: Contracts Between Art & Commerce</i> , Harvard University Press, 2000. B. Kahin, H. R. Varian, <i>Internet Publishing and Beyond: The Economics of Digital Information and Intellectual Property</i> , MIT Press, 2000. A. N. Greco, <i>The Media and Entertainment Industries</i> , Allyn and Bacon, 2000. |

(2) PhD コース

ジョン・ベーツ・クラーク(John Bates Clark), ホテリング(Harold Hotelling), ヴィックリー(William Vickrey)など優秀な経済学者を多数輩出する大学院であり、学生に対しては、基礎的な経済学のツールを習得した上で、2つの専門領域をカバーすることが求められている。マイクロ・マクロ経済学、ファイナンスおよび労働経済学、開発経済学、国際経済学など経済学の諸トピックスについて多くのセミナーが開かれており、学生の研究論文執筆の支援を行っている。

| <コア> ミクロ経済学 I・II (Microeconomic Analysis, I and II) | |
|---|--|
| 講義内容 | ミクロ経済学の基礎項目を教える。講義内容は次の通り：生産者と消費者の理論(Consumer and producer behavior), 一般均衡理論(general competitive equilibrium), 厚生と効率性(welfare and efficiency), 不確実性(behavior under uncertainty), 資本理論(capital theory), 不完全競争(imperfect competition), ゲーム理論と情報の経済学の基礎(elements of game theory, problems of information) |

| 産業組織論 I・II (Industrial Organization, I and II) | |
|--|--|
| 講義内容 | 寡占市場の分析を行う。内容は次の通り：規模と範囲の経済(Economies of scale and scope), 展開ゲーム(Extensive and strategic game forms), 純粋戦略と混合戦略(Pure and mixed strategies), 不完全情報ゲームと不完備情報ゲーム(Incomplete and imperfect information), ナッシュ均衡(Existence, uniqueness and optimality of Nash equilibrium), 多段階ゲーム(Multi-stage games), 価格設定(Price-setting games), 戦略としての生産関数(Supply functions as strategies), 予測的变化と整合性(Conjectural variations and consistence), シュタッケルベルクモデル(Von Stackelberg paradigm), 戦略的代替と補完(Strategic substitutes and compliments), カルテルと安定性(Formation and stability of cartels), 多段階の製品バラエティ競争(Variety differentiation as a multistage game), ホテリングモデル(Hotellings' model), 垂直的製品差別化(Quality differentiation) |

これ以外に、上級ミクロ経済分析 I・II (Advanced Microeconomic Analysis, I,II), ゲーム理論と経済学的应用(Game Theory With Economic Applications), エコノミックデザイン(Economic Design)が関連科目として設定されている。

6 シカゴ大学ビジネススクール (The University of Chicago Graduate School of Business)

(1) MBA コース

13の専門領域があり、学生は1つ以上の修得が必要である。学生のバックグラウンドにあわせ、数多くの選択科目が設けられている。

| 競争戦略(Competitive Strategy) | |
|----------------------------|--|
| 講師 | R. Shivakumar / M. Bertrand / M. Gentzkow / W. Dessein / A. Petrin / L. Garicano |
| 講義内容 | ミクロ経済学と産業組織論の諸トピックスを応用し、企業間競争の環境下での経営者の意思決定に役立てる。ゲーム理論の応用と、産業組織・構造の分析(ポジショニングと持続的競争優位: positioning and sustainability of competitive advantage)の知識をベースに、次のトピックスを講義する: 交渉力(bargaining power), 寡占市場化での価格・非価格競争(price and non-price rivalry in oligopolies), オークション設計(auction design), 参入戦略と退出戦略(entry and exit strategies), 戦略的コミットメント(strategic commitments), 技術競争(technological competition) |
| 教材 | D. Besanko, D. Dranove, M. Shanley, <i>Economics of Strategy</i> , John Wiley & Sons, 2000. A. K. Dixit, B. J. Nalebuff, <i>Thinking Strategically, The Competitive Edge in Business, Politics, and Everyday Life</i> , W. W. Norton & Company, 1991. |

| ミクロ経済学(Microeconomics) | |
|------------------------|--|
| 講師 | J. Guryan / I. Rasul / L. Rayo / R. Topel / L. Stole / D. Carlton |
| 講義内容 | ミクロ経済学の基礎を講義する。内容は次の通り: 消費者と需要(consumer demand), 企業の供給・産業の行動(firm supply and industry behavior), 最適なプライシング政策(optimal pricing policies), 不確実性の経済学(economics of uncertainty), 公共資源(natural resources), 資本理論(capital theory) |
| 教材 | J. M. Perloff, <i>Microeconomics</i> , Addison-Wesley, 3rd ed., 2003. N. G. Mankiw, D. R. Hakes, R. B. Harris, <i>Principles of Economics</i> , Dryden Press, 1998. D. A. Besanko, R. Braeutigam, <i>Microeconomics: An Integrated Approach</i> , John Wiley & Sons, 2003. |

(2) PhD コース

数量的分析に重点を置いている。そのために、基礎知識の欠けている学生に対してのフォローアップを充実させている。入学の際、基礎的なミクロ・マクロ経済学・エコノメトリクスの知識について不足している生徒は、以下の授業をあらかじめ履修しておく必要がある: 価格理論(Price Theory -Intro), ミクロ経済学(Microeconomics), マクロ経済学(Macroeconomics), 微分積分学(Calculus), エコノメトリクスと統計学(Econometrics / Statistics)

| 産業組織論(Industrial Organization) | |
|--------------------------------|---|
| 講師 | S. Peltzman |
| 講義内容 | 主に以下のような内容を講義する: 市場構造(企業数と企業規模)と市場成果, 垂直的企業間関係, 市場構造と市場成果に関する実証分析 |
| 教材 | D. W. Carlton, J. M. Perloff, <i>Modern Industrial Organizations</i> , Addison-Wesley, 4th ed., 2004. |

| | |
|----------------------------------|---|
| 情報の経済学(Economics of Information) | |
| 講師 | M. Harris |
| 講義内容 | 戦略的行動(strategic behavior) , 情報と契約の経済学(information and contracting in economics) , ファイナンス(finance)の諸トピックスを講義する。講義は論文を土台に行うが , 部分的に指定教科書も使用する。 |
| 教材 | B. Holmström, "Moral Hazard and Observability", Bell Journal, Vol.10-1(1979), 74-91. A. Mas-Colell, M. D. Whinston, J. Green, <i>Microeconomic Theory</i> , Oxford University Press, 1995. |

7 ハーバード大学ビジネススクール (Harvard Business School)

(1) MBA コース

| | |
|--|-----------------------|
| <コア> ゲームと戦略(Games of Chance and Games of Strategy) | |
| 講義内容 | この科目は、競争に関する理論的分析を行う。 |

| | |
|---|---|
| 競争のミクロ経済分析(Microeconomics of Competitiveness: Firms, Clusters and Economic Development) | |
| 講義内容 | ミクロ経済学に基づいて、競争と経済開発を中心に、ケーススタディやリーディング、ゲストスピーカーによる講演などによって分析する。 |

(2) PhD コース

| | |
|--------------------------|--|
| マーケットデザイン(Market Design) | |
| 講義内容 | マーケットデザインにおける理論と事実を中心に扱う。特に入札と労働市場の事例を取り上げることに焦点を当てる。 |
| 教材 | V. Krishna, <i>Auction Theory</i> , Academic Press, 2002. P. R. Milgrom, <i>Putting Auction Theory to Work</i> , Cambridge University Press, 2003. A. E. Roth, M. A. Oliveira Sotomayor, <i>Two-Sided Matching</i> , Cambridge University Press, 1990. |

| | |
|-----------------------|---|
| 契約理論(Contract Theory) | |
| 講義内容 | 契約の経済学として、アドバースセクションやモラルハザードなどの問題を取り上げる。 |
| 教材 | P. Bolton, M. Dewatripont, <i>Contract Theory</i> , MIT Press, 2005. O. Hart, <i>Firms, Contracts, and Financial Structure</i> , Oxford University Press, 1995. A. Mas-Colell, M. D. Whinston, J. Green, <i>Microeconomic Theory</i> , Oxford University Press, 1995. B. Salanie, <i>The Economics of Contracts: A Primer</i> , MIT Press, 1997. |

これ以外に、実験経済学(Experimental Economics)や政治経済学(Political economies)、組織経済学(Organizational Economics)、ゲーム理論とミクロ経済学(Game theory and microeconomic theory)などが関連科目として設定されている。

8 マサチューセッツ工科大学スローン・ビジネススクール (MIT Sloan School of Management)

| | |
|--|---|
| <コア> ビジネスにおける意思決定の経済分析(Economic Analysis for Business Decisions) | |
| 講義内容 | この科目はミクロ経済に基づく科目である。具体的に、コストの分析、需要への決定要素、価格決定戦略、市場支配力などの問題を取り扱う。そして、ビジネスにおける実情に経済のインプリケーションを検討する。 |
| 教材 | R. Pindyck, D. Rubinfeld, <i>Microeconomics</i> , Prentice-Hall, 6th ed., 2004. |

| | |
|---|---|
| データ・モデル・決定分析(Data, Models, and Decisions) | |
| 講義内容 | この科目は、確率、決定分析、基礎統計、回帰分析(regression)、最適化などを行う。 |

9 ノースウェスタン大学ケロッグ・ビジネススクール
 (Kellogg School of Management, Northwestern University)
 (1) MBA コース

| | |
|--------------------------------------|--|
| <コア> ミクロ経済分析(Microeconomic Analysis) | |
| 講義内容 | この科目は、経済分析、最適決定、消費者の選択、市場構造、戦略的行動、価格決定などの問題を中心とする。 |
| 教材 | D. A. Besanko, R. Braeutigam, <i>Microeconomics: An Integrated Approach</i> , John Wiley & Sons, 2003. |

(2) PhD コース

| | |
|----------------------------|----------------------------|
| <コア> 決定理論(Decision Theory) | |
| 講義内容 | この科目は、リスクと不確実下での意思決定理論を行う。 |

| | |
|--|---|
| 経営経済学基礎I：ゲーム理論(Foundations of Managerial Economics I: Game Theory) | |
| 講義内容 | 経済・政治・社会分野における合理的意思決定主体間の協力・非協力の関係をカバーする。課題としては次の項目を挙げる：特性関数(characteristic function), ナッシュ均衡と(Nash equilibrium), ベイズゲーム(Bayesian games), 無限繰り返しゲーム(infinitely repeated games), 確率的ゲーム(stochastic games), ナッシュ交渉解(Nash bargaining solution), 協力ゲーム(cooperative games) |

| | |
|--|--|
| 契約理論とメカニズムデザイン(Contract Theory and Mechanism Design) | |
| 講義内容 | 非対称的情報とともに起こる問題を克服するために、契約理論と経済メカニズムを検討する。この講義では、次の内容を取り上げる：顕示原理とメカニズムデザイン(Revelation principle and mechanism design), 静的・動的なモラルハザードとアドバースセクション(static and dynamic moral hazard and adverse selection), プリンシパル・エージェント・モデル(principal-agent models), 非線形価格戦略(nonlinear pricing), 最適規制(optimal regulation), 不完備契約(incomplete contracts), 一般均衡におけるインセンティブ契約(incentive contracts in general equilibrium), 入札と組織の理論(bidding and the theory of organizations) |
| 上級応用ミクロ経済学(Advanced Applied Microeconomics) | |
| 講義内容 | この科目は、ファイナンス・マーケティング・経営管理分野を中心に、近代消費理論(modern theories of consumption), 生産と価格決定などの問題を取り扱う。 |

| | |
|----------------------------|--|
| 競争戦略(Competitive Strategy) | |
| 講義内容 | この講義では、経営戦略の観点から、企業に関連する経済理論を説明する。講義項目には、価格、品質、参入、多角化、イノベーション、市場介入などの経済学のモデルも含まれる。市場のミクロ的構造や中間企業の役割を、非対称情報のモデルを当てはめて使用することで説明する。 |

10 ニューヨーク大学スターン・ビジネススクール (New York University Leonard N. Stern School of Business)
 (1) MBA コース

| | |
|-----------------------------------|--|
| 上級マクロ経済学(Advanced Macroeconomics) | |
| 講義内容 | マクロ経済学における多種の問題を説明する：福祉国家とヨーロッパの失業(welfare states and European unemployment), 社会保障改革(reforming social security), インフレの財政的理由(monetary causes of inflation), 信頼性とマクロ経済政策(credibility and macroeconomic policy), 財政危機と政府の緊急援助(financial crises and government bailouts), 最適課税(optimal taxation) |
| 教材 | A. S. Blinder, <i>Central banking in theory and practice</i> , MIT Press, 1998. |

| | |
|-------------------------|--|
| 企業と市場(Firms and Market) | |
| 講義内容 | 市場はどのように働くのかを検討する。この科目は、二つの部分に分けられる。前半部分は、消費者と企業による意思決定を取り上げる。そして、市場がどのような条件のもとで有効に働くのかという問題を考える。後半部分は、どうして市場が有効に働かないのかを考える。ゲーム理論によってモデル化される戦略行動の必要性を焦点に当てる。 |
| 教材 | M. Baye, <i>Managerial Economics and Business Strategy</i> , McGraw-Hill, 4th ed., 2002. |

| | |
|--|---|
| エンターテインメントとメディア(Entertainment and Media: Market and Economics) | |
| 講義内容 | エンターテインメントとマスコミ分野における経済的問題点を取り上げて、分析する。 |
| 教材 | H. L. Vogel, <i>Entertainment Industry Economics</i> , Cambridge Press, 6th ed., 2005. R. Caves, <i>Creative Industries</i> , Harvard press, 2000. A. Albarran, <i>Media Economics</i> , Iowa State Press, 2002. M. R. Baye, <i>Managerial Economics and Business Strategy</i> , McGraw-Hill, 4th ed., 2003. |

(2) PhD コース

| | |
|--|---|
| <コア> ミクロ経済学：理論と応用(Microeconomics: Theory and Applications) | |
| 講義内容 | このコースは、博士論文を書くために、経済分析の方法として、ミクロ経済のテクニックとコンセプトを開発する。そして、それらのテクニックとコンセプトを会計分野や情報システムやマネジメントやマーケティング分野などにおける研究に採用できるように目的としている。 |

| | |
|--------------------------------------|--|
| <コア> マクロ経済分析(Macroeconomic Analysis) | |
| 講義内容 | この講義は、理論と時系列データの関係に重点をおいた動的マクロ経済理論を説明する：動的・確率的分析の道具の開発(development of the tools of dynamic, stochastic analysis), 経済のサイクルと資産価格の関係のレビュー(evidence on business cycles and asset prices) |

| | |
|--|---------------------|
| 上級ミクロ経済理論(Advanced Microeconomic Theory (Microeconomics II)) | |
| 講義内容 | 寡占理論とゲーム理論を中心として行う。 |

| | |
|--|--|
| ミクロ経済学による意思決定(Microeconomic Decisions) | |
| 講義内容 | ミクロ経済の基礎：消費者の理論, 企業の理論, 一般均衡理論, 経済の情報, ゲーム理論など |

11 ロンドン大学ビジネススクール (London Business School)

| | |
|----------------------------------|---|
| ＜コア＞ 経営経済学(Managerial Economics) | |
| 講師 | |
| 講義内容 | この科目は、経営者として経済的な思考をどのように採用できるかということを中心にする。前半部分では、ミクロ経済学の課題である、たとえば、市場がどのように働くのか、資源が価格メカニズムにどのように分配されるのか、などの問題を取り扱う。後半部分では、企業の戦略、意思決定、市場の参入障壁、入札、垂直統合、情報の経済、マーケットデザインに関する課題を取り上げる。 |

| | |
|---|---|
| ＜コア＞ 意思決定とリスク分析(Decision and Risk Analysis) | |
| 講義内容 | データ分析、不確実における意思決定、リスク・アセスメント、プロジェクトへの評価、ビジネス・シミュレーションなどのトピックを取り上げる。 |

| | |
|--|---|
| 産業と競争の分析(Analysis of Industry and Competition) | |
| 講義内容 | この科目は、ビジネス・ユニット・レベルにおける市場への分析、競争への評価と競争的戦略の考案などのトピックを中心に行う。 |
| 教材 | M. E. Porter, <i>Competitive Strategy</i> , The Free Press, 1980. S. M. Oster, <i>Modern Competitive Analysis</i> , Oxford University Press, 1990. D. Besanko, D. Dranove, M. Shanley, <i>Economics of Strategy</i> , John Wiley & Sons, 2000. A. Dixit and B. Nalebuff, <i>Think Strategically, The Competitive Edge in Business, Politics, and Every day Life</i> , W.W. Norton & Company, 1991. |

| | |
|-------------------------------|---|
| 戦略的思考(Thinking Strategically) | |
| 講義内容 | ゲーム理論、非対称的情報、入札とマーケットデザイン、取引、インセンティブ、製品市場ポジショニング、合併、研究開発競争、垂直的制限 |
| 教材 | L. M. B. Cabral, <i>Introduction to Industrial Organization</i> , MIT Press, 2000. A. Dixit and B. Nalebuff, <i>Think Strategically, The Competitive Edge in Business, Politics, and Every day Life</i> , W.W. Norton & Company, 1991. A. Brandenburger and B. Nalebuff, <i>Co-opetition</i> , New York: Doubleday & Company, 1996. R. P. McAfee, <i>Competitive solutions</i> , Princeton University Press, 2002. J. McMillan, <i>Game, Strategies and Managers</i> , Oxford University Press, 1992. |

第2節 日本

1 神戸大学経営学研究科専門職大学院

修了必要単位数 32 単位のうち、コア科目(演習,プロジェクト実習,プロジェクト研究)は 12 単位。それ以外の 20 単位は、専門職大学院用の応用研究(第8群)の中から、いずれを履修してもよく、平日夜間または土曜日全日に講義は開講している。

| ミクロ経済学応用研究 | |
|------------|--|
| 講師 | 丸山雅祥 |
| 講義内容 | 市場の分析枠組, 需要の特性, 費用の規定要因, 市場支配力, ゲームと戦略, 寡占と競争, 競争戦略の分類, 価格戦略, 製品戦略, 流通と販売促進, 情報とインセンティブ, 企業の境界と構造 |
| 教材 | <p>テキスト: 丸山雅祥『経営の経済学』有斐閣, 2005 年</p> <p>丸山雅祥・成生達彦『現代のミクロ経済学: 情報とゲームの応用ミクロ』創文社, 1997 年</p> <p>D. Besanko, D. Dranove, M. Shanley, <i>Economics of Strategy</i>, John Wiley & Sons, 2000. (翻訳: 『戦略の経済学』(奥村昭博・大林厚臣 監訳)ダイヤモンド社)</p> <p>I. Png, <i>Managerial Economics</i>, Blackwell Publishing, 1998.</p> <p>D.F. Spulber, <i>Management Strategy</i>, McGraw-Hill/Irwin, 2003.</p> <p>D. Kreps, <i>Microeconomics for Managers</i>, W.W. Norton & Company, 2003.</p> <p>A. Dixit and B. Nalebuff, <i>Think Strategically, The Competitive Edge in Business, Politics, and Every day Life</i>, W.W. Norton & Company, 1991. (翻訳: 『戦略的思考とは何か』(嶋津祐一・菅野隆 翻訳)TBS プリタニカ)</p> <p>A. Brandenburger and B. Nalebuff, <i>Co-opetition</i>, New York: Doubleday & Company, 1996. (翻訳: 『ゲーム理論で勝つ経営』(嶋津祐一・東田啓作)日経ビジネス文庫)</p> |

2 一橋大学大学院商学研究科経営学修士コース

講義, ケース, フィールドワーク, シミュレーションゲーム, 大量のレポート作成作業など, 多様な教育方法を有機的に組み合わせて, 少人数のゼミナル形式での授業により, 受講生の濃密なネットワーク相互作用を生み出している。コア科目 11 科目のうち, 6 科目が選択必修科目であるが, 経済学に関わる科目は 1 科目のみである。出願資格では, 在職経験については不問となっているが, 主たる対象として社会人経験者や在職中の者を想定して 講義内容の決定を行っている。講義は平日昼間に行われる。

| <コア> 企業と産業の経済学 | |
|----------------|--|
| 講師 | 長岡貞夫 |
| 講義内容 | コストの概念, 消費者の選択と需要, 市場の均衡価格, 競争と価格設定, 合併買収, 垂直支配, 競争政策, インセンティブ, 逆選択, 中小企業政策, 研究開発の決定要因と研究開発競争, 知的財産, ネットワーク外部性, 比較優位と産業構造, 通商政策 |
| 教材 | <p>長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学: 基礎と応用』日本評論社, 1997 年</p> <p>小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣, 2001 年</p> <p>L. M. B. Cabral, <i>Introduction to Industrial Organization</i>, MIT Press, 2000.</p> <p>D. W. Carlton, J. M. Perloff, <i>Modern Industrial Organizations</i>, Addison-Wesley, 4th ed., 2004.</p> |

3 早稲田大学ビジネススクール(大学院アジア太平洋研究科修士課程国際経営学専攻)

プログラムや専修の枠を越えた科目履修が可能であり、選択可能な講義科目数は 90 科目（国際関係学専攻の 110 科目を加えると合計 200 科目）に上る。学生 1 人 1 人が自分のキャリアゴールに沿ったカリキュラム・デザインを作成することができる。修了必要単位数が 50 単位とかなり多く、統計学や経済学がコア科目として設定されている。

| | |
|------------|--|
| ＜コア＞企業の経済学 | |
| 講師 | 岩村充・眞野芳樹・吉川智教 |
| 講義内容 | 一般に「ミクロ経済学」と呼ばれている経済学の基礎分野から、特に企業経営や戦略策定において重要となるテーマを取り出し、その基本的な考え方を身に付けてもらうことを目的としている。講義内容は大きく 3 部に分かれる。第 1 部では、ミクロ経済学における基礎概念と理論を取り扱い、そこから発展させて競争市場における企業の意思決定問題を扱う。第 2 部では、ゲーム理論を応用して、寡占状況における意思決定と均衡到達プロセスを考える。業を行います。第 3 部では、企業活動における知識と情報の役割に注目し、情報の経済学の観点から研究開発とマーケティングを分析する。 |
| 教材 | J.スティグリッツ『ミクロ経済学』（数下史郎 [ほか] 訳）東洋経済新報社、2000 年 |

4 早稲田大学大学院商学研究科プロフェッショナルコース

「専門性を持つ MBA」を目指しており、MBA として基礎的な知識を得るためのコア科目と専門性を鍛えるための専門科目をモジュールごとに設置している。また、専門性を鍛えるために修士論文も重視している。コア科目（8 科目のうち選択必修科目 3 科目）には、マクロ経済学を用いた科目（経済分析）はあるものの、ミクロ経済学の解説といった科目はなく、専門科目にもビジネス・エコノミクスに関わる科目はない。

5 慶應義塾大学大学院経営管理研究科

多くの科目でケース・メソッドを採用し、MBA 課程において 500 から 700 に上るケースに取り組み、現実の意思決定にかかわる参加型のシミュレーションを重ねていく。ケース・メソッドを採用していない科目でも学生参加型の教育が重視されている。

| | |
|-------|---|
| 企業経済論 | |
| 講師 | 大林厚臣 |
| 講義内容 | 企業の経営戦略をミクロ経済学的に分析する。主なトピックは、業界分析、競争戦略、価格政策、取引費用、インセンティブ、契約、情報の経済学、コーポレート・ガバナンス、人事・報酬制度、組織デザイン、技術戦略、リスクマネジメント（非金融リスクを中心に）など。理論の解説と事例紹介を交えて行う。 |
| 教材 | D.ベサコ・D.ドラノブ・M.シャンリー『戦略の経済学』（奥村昭博・大林厚臣監訳）ダイヤモンド社、2002 年 P.ミルグロム・J.ロバーツ『組織の経済学』（奥野正寛 [ほか] 訳）NTT 出版、1997 年 |

| | |
|---------|--|
| 市場競争と戦略 | |
| 講師 | 姉川知史 |
| 講義内容 | 企業の競争と戦略について、経済学とりわけミクロ経済学を用いた分析を行う。企業戦略はビジネススクール育の対象として強調されてきたが、それらは現象を強調するものの、その背景にある論理を軽視してきた。これに対して、近年の経済学理論の発展は、企業戦略を論理的に分析することを可能とした。そのような理論としてゲーム理論、情報の経済理論、組織の経済理論、産業組織論などがある。これらを反映してビジネススクールは、企業戦略について経済学を基礎にした分析が基礎科目ならびに専門教育の中核として発展しつつある。この科目はこのような観点から、理論的に、企業、市場、競争、戦略について検討する。事例と経済理論を組み合わせ分析する。 |
| 教材 | D.ベサコ・D.ドラノブ・M.シャンリー『戦略の経済学』（奥村昭博・大林厚臣監訳）ダイヤモンド社、2002 年 P.ミルグロム・J.ロバーツ『組織の経済学』（奥野正寛 [ほか] 訳）NTT 出版、1997 年 R. Pindyck, D. Rubinfeld, <i>Microeconomics</i> , Prentice-Hall, 6th ed., 2004. |

| | |
|------|--|
| 経営科学 | |
| 講師 | 青井倫一・柳原一夫・大林厚臣 |
| 講義内容 | この科目において学ぶ課題は次の三つに大別できる。一つは、経営の場で避けることのできない不確実性をどのように表現し分析するか。そして、不確実性のある状況における意思決定を支援するために、決定理論をベースとして考察する枠組を習得する。次の課題は、自分だけでなく相手の行動をどのように予測するかである。ゲーム理論を用いて、自社と他社の行動が相互に依存する戦略的な状況を、明確に整理し分析する演習を行う。もう一つの課題は、経営問題を解決するために、コンピュータ・モデルを構築し、モデルにより解を見出すことである。コンピュータ・モデルとしては線形計画モデルやシステム・ダイナミクス・モデル、シミュレーション・モデルなどが取り扱われる。 |

| | |
|-------------------|---|
| マネジリアル・エコノミクス特殊講義 | |
| 講師 | 青井倫一 |
| 講義内容 | T. Schellings の” The Strategy of Conflicts”及び”Micromotives and Macrobehavior”を読むことにより、企業行動の「競争」・「協調」などについて議論する。 |
| 教材 | T. C. Schellings, The Strategy of Conflicts, Harvard University Press, 1980. T. C. Schellings, Micromotive and Macrobehavior, W.W. Norton & Company, 1978. |

| | |
|-------------------|--|
| マネジリアル・エコノミクス特殊講義 | |
| 講師 | 大林厚臣 |
| 講義内容 | 競争戦略、組織や契約のデザイン、ハイテク企業の経営課題、経済政策などの中から適宜テーマを選び、輪読とディスカッションを行う。 |

6 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科

学術理論研究志向の研究指導を目指す「PhD. Program」と実践理論研究志向の研究指導を目的とする「D.B.A. Program」から成る博士課程と、昼間主履修の「Full-time Program」と夜間主履修の「Flex-time Program」から成る修士課程、職業経験 15 年以上の経営幹部候補者を対象とする「EMBA Program」から組織されている。博士課程修了要件には MBA 講義科目の履修も含まれており、必修科目として、ミクロ・マクロ経済学や統計学などが設定されており、ビジネス・エコノミクス関連科目としては、「ゲーム理論とマネジメント(講師：内田達也)」が開講されている。

7 法政大学大学院経営学研究科経営学専攻夜間コース

修士課程、博士後期課程ともに、昼間コースと夜間コース(社会人向け)の2つを設けている。経済学・統計学を用いた科目は少なく、取得単位数 30 単位の中に、経済学の科目が入ることは非常に稀となっている。

| | |
|----------|---|
| 人事・組織経済学 | |
| 講師 | 奥西好夫 |
| 講義内容 | 人事・組織経済学の基本的な分析視角・方法を概説した後、雇用慣行を主たる題材にして、そのさまざまな応用例を検討する。現実の組織のありよう、そこで形成されている制度・慣行、その下での人々の行動等に関し、「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、そして(一層難しいことだが)「どうしたらもっとよくなるのか」を、理論的、実証的に考えたい。授業の半分程度は講義およびそれに対する質疑とし、残り半分程度は参加者による具体的なケース、指定文献についての報告・討論、指定課題に対する発表(レポート提出を含む)などとする。講義で取り上げる具体的なトピックスは次の通り：経済学的アプローチ、心理学的・社会的アプローチ、取引費用とルール、不完全情報とインセンティブ問題、雇用契約と内部労働市場、人的資本理論と訓練、賃金、昇進、人事評価、採用・退職・定年、職務設計、取引関係における組織と市場 |
| 教材 | P.ミルグロム・J.ロバーツ『組織の経済学』(奥野正寛 [ほか] 訳)NTT 出版, 1997 年 E.ラジアー『人事と組織の経済学』(樋口美雄・清家篤訳)日本経済新聞社, 1998 年 J. N. Baron, D. M. Kreps, <i>Strategic Human Resources</i> , John Wiley and Sons, 1999. |

8 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科イノベーション・マネジメント専攻

短期間で専門的な知識を習得し、変化の早い企業経営や情報技術の流れに対応、短期化した企業プロジェクトのサイクルにも対応するため、修業年限は1年としているが、修了要件単位数は48単位と、非常に過密なスケジュールとなる。

| | |
|-------|--|
| 経営戦略論 | |
| 講師 | 洞口治夫 |
| 講義内容 | MBA にとっての共通言語ともいえる経営戦略の概念と用語の理解を深める。経済学、経営学、社会学、組織心理学といった学問的な基礎のうえに経営戦略論が成立していることを概説する。主なテーマとして、経営戦略論の対象と学説の発展、財務諸表の理解、価格理論、多角化戦略、国際化戦略、取引費用と企業組織などを挙げる。 |

9 関西学院大学大学院商学研究科マネジメント・コース

一つの専門分野における体系的科目履修を奨励するために、同一分野で12単位以上を修得すれば、修了証明書を与える制度を制定している。2つ以上の修了証明書の発行を受ければ修士論文なしで終了することが可能。

| | |
|-------------|---|
| 市場システム論特殊講義 | |
| 講師 | 水野敬三 |
| 講義内容 | ビジネスマンの一般教養として必要な「(ミクロ経済学の応用としての)市場と企業の経済学」を講義する。経済学初心者を対象とする。回の講義において問題演習を行う。ミクロ経済学の基礎知識の習得後、マクロ経済学の内容も講義する。主なテーマとして、ミクロ経済学の基礎知識、ゲーム理論と寡占市場モデル、価格戦略、品質決定と広告戦略、研究開発、市場構造の変化、企業組織の経済分析、垂直取引と垂直合併、独占禁止法と競争政策、企業とマクロ経済環境 |

第3節 アジア

1 韓国科学技術院 (KAIST)

| <コア> 戦略の経済学(Economics of Strategy) | |
|------------------------------------|---|
| 講義内容 | 経営戦略, 競争戦略, ビジネスモデル構築などに必要な内容を経済理論で講義する。企業の競争分析から, 競争の範囲, 垂直的・水平的な統合の理論, 企業間競争モデル, 価格競争, 非価格競争, 参入と退出などの問題を中心に, 経済理論と十分な事例を提示する。 |
| 教材 | D. Besanko, D. Dranove, M. Shanley, <i>Economics of Strategy</i> , John Wiley & Sons, 2000. C. Shapiro, H. Varian, <i>Information Rules</i> , Harvard Business School Press, 1999. A. Dixit and B. Nalebuff, <i>Think Strategically, The Competitive Edge in Business, Politics, and Every day Life</i> , W.W. Norton & Company, 1991. S. M. Oster, <i>Modern Competitive Analysis</i> , Oxford University Press, 1990. H. Varian, <i>Intermediate Microeconomics. A Modern Approach</i> , W.W. Norton & Company, 1999. |

| <コア> ミクロ経済分析(Microeconomic Analysis) | |
|--------------------------------------|---|
| 講義内容 | 市場で発生する経済現象を対象に, 経済問題を定型化して解決する基本的経済理論の理解に重点を置いて, ゲーム理論, 情報, 技術などの分析などについて講義を行う。 |
| 教材 | W. Nicholson, <i>Microeconomic theory: Basic Principles and Extensions</i> , Dryden Press, 7th ed., 1998. |

| ゲーム理論と応用(Game Theory and Applications) | |
|--|--|
| 講義内容 | 多人数決定理論(Multi-person Decision Theory)に基づいた競争理論を扱い, 非協力ゲーム・動動的ゲーム・確率的ゲームに関する既存研究について議論を行う。 |
| 教材 | R. Gibbons, <i>Game Theory for Applied Economists</i> , Princeton University, 1992. D. Fudenberg, J. Tirole, <i>Game Theory</i> , MIT Press, 1992. D. M. Kreps, <i>A Course in Microeconomic Theory</i> , Princeton University Press, 1990. R. B. Myerson, <i>Game Theory: Analysis of Conflict</i> , Harvard University Press, 1991. |

| ゲーム理論の上級トピックス(Advanced Topics in Game Theory) | |
|---|--|
| 講義内容 | ゲーム理論分野の最新研究動向による研究課題, すなわち, 均衡の概念, 競争分析, 競売, 誘引構造の設計, 進化論的ゲーム理論など, 関連分野の上級トピックスを理論・方法論・応用の各分野について分析を行う。 |

| ミクロ経済理論(Microeconomic Theory) | |
|-------------------------------|--|
| 講義内容 | ミクロ経済理論を数学的な分析道具を利用して講義する。経済主体の行動様態と市場の成果に対して分析する。 |

| 産業組織論(Industrial Organization) | |
|--------------------------------|--|
| 講義内容 | 産業組織論の諸理論, すなわち, 経済現象, 生産, マーケティング, 組織及び研究開発等の分野を理解して研究するための, ゲーム理論をベースにした理論を説明する。 |

| | |
|--------------------------------------|--|
| 情報通信経済学(Telecommunication Economics) | |
| 講義内容 | 情報化社会の中核的な産業である情報通信産業の効率性を改善する価格体系について、経済理論を元に分析を行う。あわせて、通信政策について、効率性の改善と公平性の維持を可能にさせる、通信先進国の規制を各国別で比較分析する。 |
| 教材 | H. Intven, M. Tetrault (ed.), <i>Telecommunications Regulation Handbook</i> , World Bank, 2000. J-J Laffont, J. Tirole, <i>Competition in Telecommunications</i> , MIT Press, 2000. W. J. Baumol, J. G. Sidak, <i>Toward Competition in Local Telephony</i> , MIT Press, 1994. |

2 国立ソウル大学経営大学院

| | |
|----------------------------------|---|
| <コア> 経営経済学(Managerial economics) | |
| 講師 | |
| 講義内容 | 企業・非営利組織・政府などの管理者の役割と、組織における資源の最適活用について、応用経済学を用いて分析する。主要テーマとして、統合的な組織としての企業の姿と価値モデルの構築によって根源的な企業経済モデルを考察する。 |
| 教材 | |

これ以外に、コア科目として経済学理論の研究(Studies in Principles of Economics)、ゲーム理論(Game Theory)が設定されている。

3 シンガポール国立大学経営大学院

| | |
|---------------------------------|---|
| ＜コア＞経営経済学(Managerial Economics) | |
| 講義内容 | 消費者・企業の経済主体の経済行動に関する意思決定問題や，市場の機能，取引費用理論，非対称情報などを，ミクロ経済学を用いて分析する。 |
| 教材 | R. Pindyck, D. Rubinfeld, <i>Microeconomics</i> , Prentice-Hall, 5th ed., 2001. I. Png, <i>Managerial Economics</i> , Blackwell Publishing, 2nd ed., 2001. |

| | |
|---|---|
| ＜コア＞経営者のための分析方法(Analytics for Managers) | |
| 講義内容 | 経営者の意思決定をサポートするためのデータ分析の方法について，次の各テーマについて講義を行う：意思決定とリスクの分析(Decision and Risk analyses)，線形・非線形最適化モデル(Linear and Nonlinear optimization models)，回帰分析・時系列分析モデルによる予測(Forecasting using Regression and Time Series models) |
| 教材 | S. C. Albright, W. L. Winston, C. Zappe, <i>Data Analysis & Decision Making With Microsoft Excel With Infotrac</i> , Duxbury Press, 2002. |

| | |
|---|--|
| ＜コア＞マクロ国際経済学(Macro and International Economics) | |
| 講師 | |
| 講義内容 | 基本的なマクロ国際経済学によってビジネス環境を定義する。主なトピックは，消費と投資の決定，製品，貨幣，資本市場での均衡，為替動向，労働市場，技術の進歩と成長理論など，幅広く分析する。 |
| 教材 | O. Blanchard, <i>Macroeconomics</i> , Prentice Hall, 3rd ed., 2003. P. Krugman, <i>Peddling Prosperity</i> , W.W. Norton & Company, 1994. P. Krugman, <i>The Return of Depression Economics</i> , W.W. Norton & Company, 1999. |

| | |
|---|---|
| 競争のミクロ経済分析(Microeconomics of Competitiveness) | |
| 講義内容 | 産業競争，国際競争，先進経済と発展途上経済との交換経済などを経済戦略の側面で分析する。 |

| | |
|---|---|
| マーケティング戦略とゲーム理論(Marketing Strategy and Game Theory) | |
| 講義内容 | マーケティングの4Pの影響などの問題を，ゲーム理論によるアプローチで分析する。 |

4 香港科学技術大学経営大学院

(1) MBA コース

| | |
|--------------------------------------|--|
| ＜コア＞経営経済学(Managerial Microeconomics) | |
| 講義内容 | 需要と供給，独占と競争，価格政策とゲーム理論などの経済概念を講義し，意思決定に関するケースを分析する。 |
| 教材 | I. Png, <i>Managerial Economics</i> , Blackwell Publishing, 2nd ed., 2001. M. Hirschey, <i>Managerial Economics</i> , The Dryden Press, 2000. |

| | |
|-------------------------------------|---|
| ＜コア＞ミクロ経済分析(Microeconomic Analysis) | |
| 講義内容 | 最適化問題に関する数学を用いて，消費と生産，市場の競争，余剰と一般均衡，公共財と外部性，ゲーム理論，非対称情報等の経済理論を順次に講義する。 |
| 教材 | H. Varian, <i>Intermediate Microeconomics. A Modern Approach</i> , W.W. Norton & Company, 1999. P. Milgrom, J. Roberts, <i>Economics, Organization and Management</i> , Prentice Hall 1992. W. Nicholson, <i>Microeconomic theory: Basic Principles and Extensions</i> , Dryden Press, 7th ed., 1998. D. M. Kreps, <i>A Course in Microeconomic Theory</i> , Princeton University Press, 1990. |

| | |
|---------------------------------|---|
| マクロ国際経済学(Global Macroeconomics) | |
| 教材 | A. B. Abel, B. Bernanke, <i>Macroeconomics</i> , Addison-Wesley, 5th ed., 2005. |

| | |
|---|--|
| ゲーム理論・経済学・競争戦略(Game Theory, Economics and Competitive Strategy) | |
| 教材 | A. K. Dixit, S. Skeath, <i>Games of Strategy</i> , W.W. Norton & Company, 1999. K. Binmore, <i>Fun and Games</i> , D. C. Heath & Company, 1992. J. McMillan, <i>Game, Strategies and Managers</i> , Oxford University Press, 1992. |

| | |
|---|--|
| ハイテク産業の経済学(Economics of High-Tech Industries) | |
| 教材 | C. Shapiro, H. Varian, <i>Information Rules</i> , Harvard Business School Press, 1999. |

(2) PhD コース

PhD コースでは，コア科目として，経営・経済のための数学(Mathematics for Business and Economics)や，ミクロ経済理論 I(Microeconomic Theory I)などが設定されており，関連科目として経済学基礎 I・II(Economics Foundations I, II)が設定されている。

参考：研究者養成大学院

1 東京大学大学院経済学研究科

(1)経済理論，(2)現代経済，(3)企業・市場，(4)経済史の四つの専攻領域が設けられている。(1)は経済理論・統計学の研究を，(2)は現代経済の分析を，(3)は企業ならびに市場組織の分析を，(4)は経済史の研究を主な目的とする専攻領域である。入学試験において，社会人特別選抜はない。

| 産業組織と競争政策の評価 | |
|--------------|---|
| 講師 | 大橋弘 |
| 講義内容 | 産業組織論で使われる推計手法について講義を行なう。短期における企業競争度の測定や，長期における企業の参入退出にまつわる分析などをカバーする。更に，これらのツールを用いて，競争政策の様々な側面(特に共謀・合併について)を実証的に評価する方法について議論をする。ミクロ経済学 I, II, マクロ経済学 I, II(特に動学最適化) 基礎計量経済の履修を前提とするが，同時履修も認める。 |

| 日本の企業と産業組織 | |
|------------|--|
| 講師 | 三輪芳朗 |
| 講義内容 | 日本の企業と産業組織の諸側面に関する論点と分析について，実証研究に重点を置いて紹介し議論する。毎回指定する論文を読んでいることを前提にして，簡単に紹介したうえで，立ち入って検討を加える。ミクロ経済学の基礎の理解を前提とする。 |

2 京都大学大学院経済学研究科

大学院教育の中軸は研究者養成を中心とする「博士コース」であり，原則として5年一貫の教育研究を行っている。経済システム分析専攻，経済動態分析専攻，現代経済学専攻，ビジネス科学専攻(平成16年度からビジネス科学コース制定に合わせて改名)の4つの専攻から構成されているが，自分の専攻分野を指導教官の専攻分野と一致させる必要はない。ビジネス科学コースのみ社会人特別選抜を行っている。なお，平成17年度からビジネス科学専攻において，「ミクロ経済学」の講義が開講されており，丸山雅祥『経営の経済学』(有斐閣)がテキストとして採用されている。

| 産業経済のゲーム分析 | |
|------------|--|
| 講師 | 今井晴雄 |
| 講義内容 | 産業経済理論におけるゲームモデルの応用を基本テーマとして掲げ，半期の限られた時間内で，効率的に，ゲーム理論の応用としての産業組織のトピックをカバーする。 |
| 教材 | J. Tirole, <i>Theory of Industrial Organization</i> , MIT Press, 1988. |

| 組織間関係の経済分析 | |
|------------|--|
| 講師 | 成生達彦 |
| 講義内容 | 生産と消費の間には時間、空間、情報、価値、所有などの様々な懸隔がある。流通の役割は、これらの懸隔を橋渡しすることである。この役割を果たすためには多様な機能を遂行する必要がある、それらを効率的に行うためには様々な情報やノウハウが必要とされる、これらの情報やノウハウを1人の経済主体が全て持っている事は稀であり、通常1人の経済主体はその一部を持っているに過ぎない。この種の情報の一部は市場で売買することができず、有用な情報を持つ経済主体は自ら流通プロセスに直接関与する。その結果、流通プロセスには生産者、卸、小売業者をはじめとする多数の経済主体が関与することになる。このような流通システムが効率的に運営されるためには、円滑なコミュニケーションを図るとともに、参加する経済主体に適切な誘因が提供されるように権限と責任を配分する必要がある。講義では、このような流通システムを念頭において、そこでの企業間関係について検討する。主要なトピックスは次の通り：垂直的取引制限、取引慣行、チャネル文化とパフォーマンス、チャネル内の情報伝達、チャネル間競争 |
| 教材 | 成生達彦『流通の経済理論:情報・系列・戦略』名古屋大学出版会、1994年 |

3 大阪大学大学院経済学研究科

ミクロ経済学・マクロ経済学・統計学が必修基礎科目として設定されており後期過程に進学することが前提となっている経済学専攻、経済社会を分析する能力を培い就職する者が多い政策専攻、経営学の優れた研究者の育成とMBAを取得する職業人の育成を図る経営学系専攻の3つの専攻に分けられている。しかし、専攻による科目の履修制限はない。入学試験において、社会人特別選抜を実施している。

| ビジネス・エコノミクス基礎 | |
|---------------|---|
| 講師 | 浦井憲 |
| 講義内容 | 経済学のために最低限必要な数学的知識、個人と社会、市場、不確実性、不完備市場、一時的均衡、合理的期待均衡といった基礎的概念が解説。数学モデルの厳密さと整合性が重視。最後に厚生経済学の基本定理と外部性の問題、とくに構造的な外部性の問題として、情報の問題、モラルの問題、不良債権の問題などを扱う。 |
| 教材 | 神谷和也・浦井憲『経済学のための数学入門』東京大学出版会、1996年 D. M. Kreps, <i>A Course in Microeconomic Theory</i> , Princeton University Press, 1990. A. Mas-Colell, M. D. Whinston, J. Green, <i>Microeconomic Theory</i> , Oxford University Press, 1995. |

| 応用ビジネス・エコノミクス | |
|---------------|--|
| 講師 | 石黒真吾 |
| 講義内容 | 情報の非対称性とインセンティブの問題を考察する。扱うテーマは、モラルハザード、逆選択、メカニズムデザイン、不完備契約などである。また、その応用として、労働システム、金融契約、企業間取引などに関する制度的な問題を考察する。 |
| 教材 | B. Salanie, <i>The Economics of Contracts: A Primer</i> , MIT Press, 1997. O. Hart, <i>Firms, Contracts, and Financial Structure</i> , Oxford University Press, 1995. 伊藤秀史『契約の経済理論』有斐閣、2003年 |

[2005.5.18 705]